

普及活動情勢報告（平成 29 年 12 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

ユズ果皮障害の調査



各種の果皮障害

11 月 9、16、20 日に大豊町の JA 土佐れいほく出荷場で営農指導員と協力してユズの果皮障害の発生要因を調査・分析しました。

調査結果では果皮障害の主なものは病害による果皮の汚れや害虫の食害、原因不明の果皮の陥没、トゲによる刺し傷などで、それらの発生程度は園地条件や管理方法によって異なることなどが分かりました。

今後、分析を進め、1 月には農業者のリーダーと検討し、2 月には栽培マニュアルに防除対策を反映させる予定です。

米ナス部会反省会の開催



反省会の様子

12 月 1 日、JA 土佐れいほく園芸部米ナス部会は JA 本山支所で反省会を開催し、部会員 13 人が参加しました。普及所からは秋の長雨の影響で多発した黒枯病対策として、薬剤の予防散布等を指導しました。

参加者からは「病気が広がり始めたら、防除しても止められない。天気の合間に防除する。」と自らの経験が話されました。

普及所では、今年の実省点を生かして来年の生産が安定するよう、防除対策を中心に情報発信していきます。

協業栽培品目“チョロギ”収穫と山里の幸で交流しました ～土佐町「伊勢川営農組合」チョロギ収穫体験～



チョロギの収穫で歓声を上げる参加者

12 月 3 日、「伊勢川営農組合」でチョロギ収穫体験イベントを開催し、嶺北地区内外から参加した 18 人に集落営農組織の活動を PR しました。「伊勢川営農組合」はこうち型集落営農組織として園芸品目の導入で経営発展を目指しており、普及所はチョロギ、梅などの栽培指導や組織のステップアップを支援しています。

チョロギは根の先に生長した巻貝型の塊茎を食用とするシソ科の多年草で、おめでたい食材としておせち料理にも使われています。

参加者はチョロギ収穫の他にもワラジづくりや餅つきを体験し、昼食は組合員の手づくり料理で山里の幸を満喫しました。参加者全員が次回も参加したいという満足度の高い収穫体験になりました。

ブランド米「土佐天空の郷」の本年を振り返る～3度目の日本一を目指して～



次作に闘志を燃やす参加者

12月7日、本山町役場で本山町特産品ブランド化推進協議会総会を開催し、生産者、農業公社、役場等32人が参加しました。

普及所からは、本年の水稻生育概況、次作に向けた注意点(ごま葉枯病、カメムシ対策など)を周知するとともに、11月に開催された「お米日本一コンテスト in しずおか」での上位入賞者の概要を説明しました。

生産者からは、「より一層全員で栽培努力に励み、来年は日本一を奪還しよう!」という力強い声が聞かれました。

普及所は今後、1月に個人面談(全戸対象)を行い、次作における作付計画の作成支援に取り組んでいきます。

花の魅力を学習～地元小学校で花育授業を実施～



地域での花き栽培を学習

12月12日にJA土佐れいほく花卉部会は、土佐町小学校6年生21人を対象にした花育授業を行いました。

普及所から「花き産地紹介」として、オリジナルユリ「ノーブル」等の栽培状況を講義した後、部会員が生産した花材を利用してフラワーアレンジメントを行いました。

部会員からは「初めての試みだが、地域の農業や花の魅力を知ってもらい良いきっかけになった」と小学生の楽しそうな姿を見て喜んでいました。

普及所では、今後も部会活動支援を通じて、児童や生徒に対する花育活動に取り組んでいきます。

土壌と肥料の勉強会を開催

～第4回はちきん農業大学地域講座・新規就農者むけ農業基礎講座～



土を測定する参加者

12月12日、嶺北農業改良普及所で第4回はちきん農業大学地域講座・新規就農者むけ農業基礎講座を開き、女性農業者3人、新規就農者及び就農予定者5人が参加しました。

講座は普及指導員が講師となり、土壌と肥料について説明しました。参加者からは「塩類集積とはどんな状態なのか?」「ソルゴーの使い方を詳しく知りたい」など積極的な質問がありました。その後の実習では、参加者が持参した土のpHとECを測り、講師は測定値をもとにアドバイスしました。

普及所は、土づくりや適正施肥ができるよう、講習会等で情報提供していきます。

来年度の栽培にむけて～シシトウ部会反省会開催～



青枯病について熱心に話を聞く参加者

12月13日、JA土佐れいほく園芸部シシトウ部会は反省会を開催し、部会員18人が参加しました。

普及所は農薬の散布方法や今年度発生が多かった青枯病対策について指導し、次年度から導入が予定されているGAPについて説明しました。参加者からは「農薬は雨が降る前と後、どちらに散布するのが良いか」「展着剤の効果的な使用法は」等の活発な意見交換が行われました。

今後、普及所は収量向上と県内トップクラスの品質維持にむけて、土づくりなど作付け前から指導していきます。

地域にあった取組を進めよう！～「嶺振」農業部会が研修会を開催～



各組織の取組を紹介

12月13日、嶺北地域の農業関係機関で構成する「嶺北地域農林業振興連絡協議会」の農業部会は、管内3カ所の集落営農組織で視察研修を行いました。参加者は、行政やJA職員などの農業部会員に加え、集落営農に関心を持つ関係者20人で、今年度は地域でできる取組を考えていこうと、管内の伊勢川営農組合、松木野営農組合（土佐町）、吉延営農組合（本山町）で実施しました。

伊勢川営農組合はチョロギや梅の栽培・加工、松木野営農組合は作業受託やサツマイモの栽培・加工、吉延営農組合は機械の共同利用や鳥獣害対策、特産品づくりについて紹介しました。

組織の代表者等との意見交換も活発に行われ、参加者からは「自分たちのできることから考えてみたい」「機械の共同利用ができれば新規就農者も入りやすいのでは」といった声がありました。

普及所は、各組織の支援に加え、地域とともに新たな集落営農組織の育成をすすめていきます。